

2009年10月14日 記者会見（要旨）

中村 新たな文部行政はマニフェストを中心に進めていけばいいと思っているが、大臣も言うように急ブレーキや急ハンドルは事故の元だと私も考えている。混乱をまねくことなく、徐々に変えていけばいいと思っている。日教組は教職員組合としては日本最大の組織だが、その団体の意見を一番に聞けという態度はとりたくない。国民合意の教育改革をつくりあげるには、各方面の様々な方の意見を聞いてまとめあげていく方がいいし、そのひとつの現場の意見として受け止めてほしいと考えている。

……………大臣に具体的な要望等は伝えたのか？

中村 免許更新制などの問題については、各担当の方で個別に交渉しているので、私からは1点目は、教育祭や全国教研に、日程が合えば大臣自身に実際に見ていただきたいと要望した。2点目に、小泉政権以降、日教組から見ると文科省の壁よりも財務省や総務省の壁の方が高かったので、今回は藤井財務大臣を長とする政府税調も立ち上がっているので、財務・総務との関係調整を含め、教育予算の確保をお願いしたいと伝えた。

……………大臣とのやりとりで他に話したことは。

岡本 私から申し上げたのは、自民党政権下ではあまり社会的対話をさせてもらえなかったもので、これからは対話をしていきたい、と。

……………今後、大臣と定期的に協議していくのか。

中村 具体的に定期協議という言葉はなかったが、必要に応じてお願いしたいと要望した。

……………今日の訪問の話ではないが、学力テストを抽出方針にするという方針が出た。これについての意見は。

中村 全国悉皆調査で3年経過しており、来年度のこともスタートしている。急にということにはならないと思うが、従来から日教組は抽出方式を主張してきた。県や市町村でも独自の調査をおこなっているなので、その整理などもすすめていただきたい。また、抽出にあたって「幅広の」という話もあるようだが、ただ教科が増えるということにならないようお願いしたい。子どもたちは主要5教科だけ学んでいるわけではないので、そういうことにも気を配りたい。

…………日教組は学力テストの、悉皆方式の何が問題で、何故抽出が良いと主張しているのか。

赤池 悉皆でやった場合には競争原理が働いてしまって、調査にならない。現実には、調査のための過去問題の練習や、正答を指差すなどの不正とも思われるような行為も出ていると報道されている。これでは正確な調査にはならない。調査は必要だが、悉皆で正確な調査はできない、ということが当初からの主張である。

…………免許更新制について、これまでよりも日教組の希望にそった形になりそうだが、それについての感想は。

中村 国民のみなさんが求めておられるのは、教員の質であろうと思う。それは更新制によって形づくられるものではなくて、私どもは、現場で鍛えられること、それから研修制度・採用の在り方・養成の在り方、そういう総合的なもので教員の質というものをつくられていくんだろうと考えている。更新制と教員の質はイコールでは結べない。養成・採用・研修をどのようにしていくか、これから具体的なところを議論していきたいと思う。

…………日の丸・君が代について、民主党政権でも官房長官や大臣は日の丸に一礼するし、君が代も歌われているが、それについての意見は。

中村 意見というものは特別なない。私どもは日の丸・君が代については、強制はしないでほしいということを主張しているのであって、日の丸を掲げるな、とか、君が代を絶対歌うな、とか、そういうことを言っているわけではないので。強制はするな、という主張である。

…………学力テスト、教員免許更新制とも、今のところ日教組の方針に沿った政策が展開されそうな方向性だが、それについてどう考えているか。

中村 『日教組の考え』と報道されているが、日教組は10年来、民主党の教育関係部会に所属されている議員の方とは定期的に懇談している。そういう意見交換を積み重ねたうえで、日教組方針がつくられ、民主党の方針にも反映されているんだろうという感想を持っている。実際に政権をとって、それが具体化されていけばいいと考えている。